

下水道部 マネジメント方針

下水道部では市長との政策協議のもと、次のとおり基本方針・組織目標・行動目標を定めました。この方針に基づき目標の達成に向け着実に取り組みます。

平成 29 年 4 月 1 日

下水道部長 宮 下 和 彦

【基本方針】

公衆衛生の向上及び都市の健全な発展に寄与し、併せて公共用水域の水質を保全するため、汚水処理の未普及地区解消を図ります。

また、災害に強い社会基盤を整え、都市型浸水被害の軽減を図るために、下水道施設の計画的な整備や維持管理に取り組みます。

更に、将来にわたって市民への安全・安心な下水道サービスを安定的、持続的に提供するため、徹底した健全経営を図るとともに、下水道事業の普及・啓発に努めます。

【組織目標】

- I. 公共用水域の水質を保全するため、公共下水道及び浄化槽整備などの事業を計画的に進め、汚水処理施設の普及拡大を図ります
- II. 安全で快適な生活環境を支えるため、雨水対策事業や、下水道施設の改築・更新を進めるとともに、施設や管路の長寿命化、耐震化に取り組みます。また、災害時における組織体制の強化に努めます
- III. 一層の経営健全化を図るため、福井市下水道事業経営戦略の着実な進捗と下水道使用料の検討及び適正な徴収に取り組むとともに、下水道事業の見える化に努めます
- IV. 適切で合理的な公共事業推進のため、監督職員の施工体制点検を通して公共工事の品質確保に努めるとともに、各種研修会等を通して職員の技術力向上を図ります

【行動目標】

I. 公共用水域の水質を保全するため、公共下水道及び浄化槽整備などの事業を計画的に進め、汚水処理施設の普及拡大を図ります

1 未普及地区における汚水処理施設の整備

汚水処理の未普及地区解消のため、投資と財源との均衡を図りながら計画的に普及拡大を進めます。

公共下水道区域内の人口普及率(※)： 94.7% (28 年度) → 95.0% (29 年度)
--

※ 公共下水道区域内の人口普及率

(公共下水道による汚水処理人口／公共下水道区域内人口)

平成 28 年度実績 227,190 人／239,881 人≒94.7%

平成 29 年度目標 227,900 人／239,881 人≒95.0%

平成 29 年度目標は平成 29 年 3 月末の住民基本台帳人口を基に算出。ただし、実績値は、平成 30 年 3 月末の住民基本台帳人口を基に算出。

II. 安全で快適な生活環境を支えるため、雨水対策事業や、下水道施設の改築・更新を進めるとともに、施設や管路の長寿命化、耐震化に取り組みます。また、災害時における組織体制の強化に努めます

2 浸水常襲地区の雨水対策事業推進

浸水常襲地区の被害軽減を図るため、福井市下水道雨水対策基本計画に基づき、雨水貯留施設やバイパス管などを整備します。また、浸水防除施設(※1)の普及促進を図ります。

下水道による都市浸水対策達成率(※2)	：	72.6% (28 年度)	→	84.2% (29 年度)
明里バイパス管等の整備率(※3)	：	30.9% (28 年度)	→	74.9% (29 年度)
浸水防除施設の設置補助件数	：	10 件		

※1 浸水防除施設

浸水被害の軽減を図るため、住民や事業者が設置する雨水タンク又は止水板

※2 下水道による都市浸水対策達成率

(整備済排水区面積／福井市下水道雨水対策基本計画対象区域面積)

28年度実績 1,096ha／1,510ha≒72.6%

29年度目標 1,271ha／1,510ha≒84.2%

※3 明里バイパス管等の整備率

(整備延長／全体計画延長)

28年度実績 430.3m／1,393m≒30.9%

29年度目標 1,044m／1,393m≒74.9%

3 ゲリラ豪雨による浸水被害の軽減に向けた新システムの活用

浸水常襲地区の被害軽減を図るため、下水道革新的技術実証事業(※)で整備した降雨・浸水予測システムを活用して、効率的な雨水貯留管の運用を行うとともに住民間の情報連絡体制の強化を図ります。

また、降雨・浸水予測システムについては、実際の降雨状況と予測結果を比較しながら予測精度の向上に取り組めます。

降雨・浸水予測システムを活用した模擬訓練の実施（立矢地区）	：	1回
降雨・浸水予測システムの予測精度向上		

※ 下水道革新的技術実証事業

小型気象レーダーと降雨・浸水予測システムを組み合わせた雨水管理技術を導入することにより、都市域における局地的集中豪雨に対する浸水被害軽減を図る技術実証事業

4 ポンプ場の更新整備

老朽化したポンプ場の更新に併せた雨水対策の強化と、公共下水道の普及拡大に伴う排水能力の増強を図るため、ポンプ場の更新整備を行います。

加茂河原ポンプ場の更新用地取得
大瀬ポンプ場の能力増強工事の完成

5 下水道施設長寿命化への取組

下水道施設の長寿命化を図るため、適確な維持管理及び計画的な改築・更新を行います。

下水道管の長寿命化

下水道管改築工事 : 西部、北部、東部排水区等 延長 1.8 km

下水道施設の長寿命化

日野川浄化センター : 水処理設備、汚泥処理設備

境浄化センター : 水処理設備、電気計装設備

清水西部環境センター : 電気計装設備

乾徳ポンプ場 : ポンプ設備

下森田ポンプ場 : 電気計装設備

6 下水管路の耐震化への取組

地震時においても下水道の流下機能を確保するため、管路の耐震化を進めます。

下水管路の耐震化率(※) : 45.4% (28年度) → 46.2% (29年度)

※ 下水管路の耐震化率

(耐震化済管路延長／下水道管路総延長)

平成 28 年度実績 665.4km／1,465.8km≒45.4%

平成 29 年度目標 687.0km／1,485.6km≒46.2%

7 ⑦災害対応訓練の実施

平成 26 年度に策定した福井市下水道業務継続計画に基づき実施してきた職員防災訓練をより実践的なものとするため、民間事業者の協力のもと、合同訓練を実施します。

民間事業者との合同防災訓練の実施 : 1 回

Ⅲ. 一層の経営健全化を図るため、福井市下水道事業経営戦略の着実な進捗と下水道使用料の検討及び適正な徴収に取り組むとともに、下水道事業の見える化に努めます

8 ⑧ 下水道事業の安定経営

将来にわたって市民への安全・安心な下水道サービスを安定的に提供するため、平成 28 年度に策定した福井市下水道事業経営戦略に基づき、事業経営の健全化に努めます。

また、今後予想される財源不足に対応するため、施設運転経費の見直しなど、コスト縮減に努めるとともに、「福井市下水道使用料制度審議会」を設置し、今後の使用料制度のあり方について検討を進めます。

経費回収率（※）： 99.2%（28 年度）→ 99.3%（29 年度）

下水道使用料制度に関する方向性の決定

※ 経費回収率

（下水道使用料収入／汚水処理費）

平成 28 年度実績 36.70 億円／37.01 億円≒99.2%

平成 29 年度目標 0.1%の経営改善を目指す

9 ⑨ 下水道事業の見える化を推進

日頃から目にする機会が少ない下水道への市民の関心を高め、その役割や重要性について広く理解してもらうため、PRイベントや施設見学を実施するとともに、新たな広報誌を発刊するなどによって、情報の発信を強化します。

PR イベント及び施設等の来場者数： 5,609 人（28 年度）→ 5,700 人（29 年度）

下水道広報誌の発刊： 9 月

10 下水道使用料滞納金の徴収強化

下水道使用料については、水道料金と同時に徴収するシステムとなっているため、企業局等と連携を図りながら、過年度使用料収納率の維持・向上に取り組みます。

過年度使用料収納率： 99.6%以上

※ 過年度使用料収納率

（過去 5 年度分の滞納額徴収額を含めた収納金額合計／過去 5 年度分の調定金額合計）

平成 29 年度目標

過去 5 年度分の滞納額徴収額を含めた収納金額合計／過去 5 年度分の調定金額合計≒99.6%以上

Ⅳ. 適切で合理的な公共事業推進のため、監督職員の施工体制点検を通して公共工事の品質確保に努めるとともに、各種研修会等を通して職員の技術力向上を図ります

1 1 公共工事の品質確保

適正な工事執行と品質確保を図るため、工事現場の施工体制、技術者の適正配置、下請負等に関する各関連法規の遵守状況を点検します。

工事監察指摘率(※) : 14.8% (28年度) → 14.0%以下 (29年度)
--

※ 工事監察指摘率

(是正指摘を受けた現場件数／工事監察を受けた現場件数)

平成 28 年度実績 4 件／27 件≒14.8%

平成 29 年度目標 是正指摘を受けた現場件数／工事監察を受けた現場件数≒14.0%以下

1 2 ⑧職員の技術力向上

技術系職員を対象に、設計や測量などの実務に触れる機会を増やすとともに、必要な知識や技術を身に付けるため、各種技術研修会を開催し職員のスキルアップを図ります。

各種技術研修会の開催 : 3 回
